

MAIL Order List 2024-#3 (2024年11月18日作成)

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com



(List 2024-#紙版使用表紙ジャケット)
JEFFREY FOUCAULT: The Universal Fire (USA)

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。

A ¥ 1 9 8 0 (税込み¥2178) B ¥ 2 1 8 0 (税込み¥2398)
C ¥ 2 3 5 0 (税込み¥2585) D ¥ 2 5 8 0 (税込み¥2838)
X ¥ 4 8 0 (税込み¥528) Y ¥ 9 8 0 (税込み¥1078) Z ¥ 1 4 8 0 (税込み¥1628)

《数字表記価格は税込み》

※発売年が10年以上前の商品は検品してお届けします。

(送料)

※ご注文枚数に関係なく《一律185円》郵送

ただしLPを含む場合は一律660円。

※代金引換送料(郵送): 590円何枚でも

LPを含む場合は+250円。

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

【ご注文はできるだけ12/2までをお願いします】

- お問合せはメール(song@tambourine-japan.com)にてお願いします。
- ご注文の際、プライス又はプライス・コードをお書き願います。
- お問合せはメールにてお願いします。



(2024年最後の通販リスト)

*今年最後の通販リストをお届けします。そろそろ仕入れを始めようかと思って仕入れを始めたら、あっという間に超円安に逆

戻り。円に換算すると販売価格を税込みで 3000 円以上に設定しなければならぬ CD が 5～6 点あって、それらはやむなく仕入れを断念、あるいは延期しました。

*Jeffrey Foucault の Fluff & Gravy Records からリリースされた新作が滅茶苦茶素晴らしく、Fluff & Gravy の他のアルバムも素晴らしいのがあって、今回三点 (内二点は CD と LP) 販売しています。Fluff & Gravy 以外の新入荷商品は付き合いの長い取引先の商品になりました。有り難いことに。皆さん円安を気に掛けてくれています。

*オランダの Stoof から 1978 年にリリースされた Wolverlei の CD 再発盤 [完売] をミニリストで販売したところ、Stoof の他のアルバムの CD 再発を望まれている方が数名いらっしゃいました。何と Chimera の一枚目と二枚目が CD 再発！今回販売しています！

(LP の送料改定)

*郵便料金改定に伴い LP を含む場合の送料を一律 660 円に値上げしました。

(分割払い)

*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は 1 月 15 日までで OK です。

USA, Canada, UK & Ireland, England, Ireland, Europe 他,
その他 (CD, DVD), あとがき

(ジャケット掲載分が初入荷と初コメント商品です)

[LP/USA (Singer & Songwriter)]

*STEPHEN STILLS

:Live At Berkeley 1971 5250 円 (税込み 5775 円)
(未発表音源からの二枚組 LP。ゲスト:David Crosby。1971 年/
2023 作。Omnivore)

[CD, LP/USA (Singer & Songwriter)]



(Jeffrey Foucault) (Son Of The Velvet Rat)

※CD でも LP でも OK の方はご注文の際に「CD、LP どちらでも」とお書き添え下さい。

*JEFFREY FOUCAULT: The Universal Fire (CD) C

*JEFFREY FOUCAULT: The Universal Fire (LP) ¥4780 (税込み ¥5258)

(長い間忘れていた Jeffrey Foucault の 6 年振りという新作を聴いて驚いた。本作はライブ録音だが、粗くも詩的なニュアンスの

ヴォーカルで毅然とうたう Jeffrey の孤高の唄の孤高さとバックバンドの土臭いルーツロックの見事さは、見事に SSW アルバムの名盤クラス {Bob Martin の“Midwest Farm Disaster”クラスか}。レコード会社情報によると「本作は 2021 年に癌で亡くなった親友でドラマーの Billy Conway の死とアメリカの音楽の基盤となるマスター・レコーディングの一部を破壊したユニバーサル・スタジオの 2008 年の大火災と対比させ、死、遺産、意味、使命等についての考えを問いかけている」とのこと。デジタルの時代に Jeffrey の気骨ある生身の唄とこれまた気骨ある生身感のあるバンド・サウンドは驚くとともに何とも頼もしい。2024 作。Fluff & Gravy)

*SON OF THE VELVET RAT:Ghost Ranch(CD) C

*SON OF THE VELVET RAT:Ghost Ranch(LP)¥4780(税込み¥5258)

(Georg Alzbiebler & Heike Binder の夫婦デュオ“Son Of The Velvet Rat”の本作は 11 枚目らしい。10 年前に二人はオーストリアからカリフォルニアに移住。聴くなり釘付け。ソングライターの Georg の陰鬱なヴォーカルと Heike の寄り添うハーモニーの独特さと、一応ルーツロック風だが、ひねりや歪みのあるロックの独特さは、他の同類の音楽を寄せ付けぬ個性と孤高さがある。ちなみに彼らは「旧世界の巨匠たちのキャバレー伝統に Townes Van Zandt, Leonard Cohen, Bob Dylan の旧約聖書の予言とカバラのビジョンを吹き込んだ」と表現。Georg の唄を聴いた印象は Leonard Cohen の知性と Tom Waits の魔性とが混在し、夢や幻の世界へと誘われる感覚になる。バンドの職人技的ロックもメチャカッコいい。2024 作。Fluff & Gravy)

[CD/USA {Folk, Rock} 系]



(Kassi Valazza) (Slambovian Circus of)

*KASSI VALAZZA:Knows Nothing C

(「Sandy Denny や Karen Dalton のような偉人を想起させる、英国フォークのカントリー調の音楽」という宣伝文句に惹かれて仕入れてみたら、大当たり。Holly Know-Nothings なる六人組ルーツロック・バンド {エレキ・アコースティック・スライド・ギター、スティール・ギター、ドラム、ベース、キーボード、ハーモニカ他} をバックに一発録りでレコーディングされたという本作だが、Kassi のヴォーカルは宣伝文句通り Sandy Denny に加えて、Emmylou Harris や Joni Mitchell を思い起こさせ、その歌唱は自然体で、ピュアでナチュラル。バンド・サウンドも Kassi の唄と、ハーモニー・ヴォーカルを含め細やかに一体化して自然体で土臭くナチュラル。ほぼ全曲自作曲だが、ラストの“Wildageeses”のみ Michael Hurley の曲。この曲、すっかり Michael Hurley 調で、身も心も緩んでしまう。カントリー調フォーク系女性 SSW アルバムとして珠玉の一枚。2023 作。

Fluff & Gravy)

- *SLAVOVIAN CIRCUS OF DREAMS:A Good Thief Tips His Hat C
 (1998年に結成されたという Slavovian Circus of Dreams の本作は1999年のデビュー・アルバムの25周年再発盤。彼らは英国ツアーで英国で人気を博し、本盤は英国でのリリース。彼らの音楽は唯一無比。彼らの言葉を借りれば「Bob Dylan や David Bowie の影響を受けたヴォーカル、The Band、Neil Young、Grateful Dead の影、さらには Beatles やブリティッシュ・インヴェイジョンの片鱗」を盛り込んだ彼らの音楽は「Rolling Thunder Review と西海岸のサイケデリックなものが出遭ったような楽しくも荒々しい感覚で、フォークやルーツ音楽を見失わない」音楽。僕目線では、リード・ヴォーカルの Gandalf Murphy はシンガーとして Ray Davies や Robin Williamson に通じる特異な、芸人的でヒューモアな個性があって、音楽的にも Kinks のようなライブショーの大衆性や Incredible Strings Band のような前衛さ、多彩さがある。さらに彼らは米国のフォークやルーツ・ミュージックを雑多に取り込んで、独自のモザイク模様のアメリカナを生き生きと表現し切っている。凄すぎる。1999年/2024作。Talking Elephant)
- *SAMMY WALKER:Days I Left Behind C
 (1986年、Sammy Walker のイタリアでのギター弾き語りライブ。全19曲。“Songs From Woody’s Pen”(1979作)という Sammy Walker の素晴らしいアルバムがあるが、本作は Songs From Sammy’s Pen”とでも言いたくなる、化粧なしのと言うかスッピンの Sammy Walker ソング。ギターをお伴にし、Sammy Walker 調でうたう彼の唄は優しく耳に心地よい。「優れたパフォーマンスとサウンド、まさに宝の山！」との New Shot Records のオーナーの言葉に偽りなし。1986年/2024作。New Shot)
- *GUTHRIE THOMAS:Live On Stage C
 (1993年、Guthrie Thomas のイタリアでの弾き語りのライブ。全11曲。G. Thomas は1980年代前半に自身のレーベルからギターの弾き語りの素晴らしいアルバムを三枚発表しているが、本作はまるでその時代に行ったライブかのように彼の誠実な唄が静寂の中、生き生きと収録されていて、ギター弾き語りフォーク・シンガー/SSW としての彼本来の魅力が100%+α味わえるライブになっている。1993年/2023作。New Shot)
- *JACK HARDY:Live On Stage In Italy C
 (1993年に Jack Hardy がイタリア初公演を行ったときのライブ。ライブはバンド編成でメンバーは Jeff Hardy, David Hamburger, Wendy Beckerman。自身のギターに加え、ドブロ、ベース、そして Wendy のバックিং・ヴォーカルによる音楽は滋味豊かで彼の個性的な唄と一体化していて心和む。全17曲。1993年/2023作。New Shot)
- *TOM RUSSELL BAND:Live By The River 1993 C
 (一時期ソロ活動と並行してバンドを組んで活動をしていた {Hardin & Russell} の Tom Russell の Tom Russell Band の最後のアルバムの“Hurricane Season”{1991作}の二年後に行った Tom Russell Band による1993年のイタリアでのライブ。テックスメックス風ロックン・カントリー&カントリー・ロック。1993年/2023作。New Shot)
- *THE BURRITO BROTHERS:Together B

- (嘘みたいにかっこよいカントリー・ロック。ヴォーカルもヴォーカル・ハーモニーもサウンドもあまりにも美味すぎるワタクシ好みの常若のカントリー・ロック。2023 作。Store For Music)
- *JEFFREY MARTIN: Thank God We Left The Garden C
(ポートランドの SSW の Jeffrey Martin の新作で四枚目。身震いするほどの素晴らしい SSW アルバム。2023 作。Loose Music)
- *BOB MARTIN: Seabrook C
(2022 年 9 月 21 日に 80 歳で亡くなった Bob Martin のラスト・アルバム。11 曲。2008 年/2023 作。Worried Songs)
- *LUKE OLSON: Panhandle Sunset A
(テキサスの当時若き SSW の Luke Olson の 2000 年作の二枚目。プロデュースは Maines Brothers の Lloyd Maines。Luke の唄は良い意味で甘ったるさがあって、バック・サウンドはノホーンと心地よいカントリー・ロック。若草のようにフレッシュなカントリー・ロック調の SSW アルバム。ずっと聴いていたくなる。Luke Olson)
- *JEFF WILKINSON: Landscapes A
(ニューヨークを拠点に活動する SSW の Jeff Wilkinson の 2005 年作の四枚目。彼のバンド“Shutterdogs”を従えて制作された本作はブルース、カントリー、フォーク、ジャズなどの音楽性がほどよくミックスしたカントリー・ロック・タイプの SSW アルバム。カントリー・ロック系 SSW アルバムとして秀逸。Brambus)
- *THE ORIGINAL HARMONY RIDGE CREEK DIPPERS
: Zola And The Tulip Tree Z
(Mark Olson, Victoria Williams, Mike Russell のトリオの 1999 年作。Mark Olson のヴォーカルも Victoria Williams のヴォーカルもそしてカントリー・フィーリングなサウンドもゆるいゆるい。西海岸産ノホーンなルーツ・ロックの金字塔。ゲスト: Don Heffington{ホ`ンゴ`他}, Eric Heywood{ペダル・スティール}。Creek04802)
- *THE TEXAS KELLYS: Stay All Night Y
(アイルランドの老舗レーベル“Mulligan”から発売された 6 人組ルーツロック・バンドの Texas Kellys (Waterboys の Steve Wickham もメンバー) の 1991 年作。野趣なヴォーカルもルーツ色濃いごった煮サウンドは二流センスもあって、職人芸級。何も知らずに聴いたら、百戦錬磨の米国のヴェテラン・ルーツロック・バンドと思うだろう。検索したら米国アマゾンで 104 ドルで売っていた。Mulligan)
- *MARK STUART: Songs From A Corner Stage Y
(Stacey Earle のご主人の Mark Stuart の 1999 年作のデビュー作。本作はのギターの弾き語りによる SSW 然とした曲調の悲喜こもごも感のあるタイプの曲と南部～ルーツ・ロック・タイプの曲が混在。彼のルーツ志向の唄の数々は心底感動的。ゲスト: Stacey Earle。Gearle)

[CD/CANADA]

- *CHESTERFIELD INLET: Mario Russell Z
(SSW で女優の Andrea Koziol とピアニストの Bill Brennan が結成したジャズ系フォーク・グループ“Chesterfield”の 1995 年作。Bill Brennan の軽やかなピアノをフィーチャーしたジャズ風サウンドに乗って、Andrea の裏返るヴォーカルが軽やかに舞う。

Joni Mitchell がセンスの良いジャズ・バンドの伴奏で、爽やかにうたってる感じだ。最高に心地よい。CICD 01)

[CD/BITAIN&IRELAND(SSW 系)]



(Al Stewart & Wmpty) (Allan Taylor) (Iain Matthews & A. Vanderveen)

*AL STEWART & THE EMPTY ROCKETS:Live D

(Al Stewart の新作はシカゴを拠点に活動するブルースロック・バンド"Empty Pockets" {二枚のアルバムが Billboard 誌のブルース・アルバム・チャート一位} をバックに従えてのライブ。Dave Mason や Kenny Loggins, Richie Furey 等との活動を通してバンドの音楽を磨いてきたという彼らのロックは、まるで名うてのセッション・ミュージシャンの集合体のように旨みがあって小気味よくタイト。ライブでありながら、彼らの土臭いサウンドは的確・適切で、年齢を重ねてもなお常若で甘みのある Al Stewart の唄と一体化し、Al Stewart の唄を晴れやかに魅せている。Al のヴォーカルもバンド・サウンドも滅茶苦茶美味。1970年代録音と言われても、信じてしまうくらいの不滅の Al Stewart 節と 70 年代風なカントリーロック系サウンドだ。ゲスト: Peter White {Al Stewart の長年のバンド仲間}。これほど元気な Al Stewart と出逢えるとは! 2024 作。Wallaby Trails)

*ALLAN TAYLOR: The Road Well Travelled ¥2890 (税込み¥3179)

(Super Audio CD. P30 のブックレット+ハードカバー豪華パッケージ。Allan Taylor は 1945 年 9 月の生まれだから 79 歳か。おそらく最後のアルバムとの思い出制作したのであろう本作は、共演者の伴奏やハーモニー・ヴォーカルも丸ごと Allan Taylor 色に染まって滋味豊か。1971 年のデビュー・アルバム"The Lady" から半世紀以上。Allan Taylor が魅せた"The Lady"での英国フォーク・シンガー的デリカシーは本作においても、穏やかに息づいている。2024 作。Stockfisch)

*IAIN MATTHEWS & AD VANDERVEEN

: Greetings From Grolloo C

(2003 年 3 月 1 日オランダでのアコースティック・ライブ。Iain Matthews が移住先のテキサスを拠点にソロで悠々自適に音楽活動をしていた時代のオランダの SSW の Ad Vanderveen との共演ライブ。この時代の Iain Matthews の音楽は SSW の原点に戻ったかのような、ギターのエッジによる素直な唄ばかり。その時代の彼のソロはどれも彼本来の唄の良さが表出されていて味わい深い。そんな味わいがライブで味わえる。Iain が 9 曲で Ad が 6 曲でリード・ヴォーカルを取っているが、唄はソロ+デュエットの構成のためか、Iain Matthews のソロ・ライブの印象が強い。Ric Sanders が二曲で飛び入り共演。2003 年/2024 作。Radz)

*IAIN MATTHEWS: Excerpts From Swine Lake A

(1998 作。Blue Rose)

- *MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The New Mine C
(2020 作。MIG Music)
- *MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The Woodstock Album C
(2023 作。MH Music)
- *SLIM CHANCE:Phoenix Tapes C
(Ronnie Lane 時代の Slim Chance のオリジナル・メンバー、Steve Bingham, Charlie Hart, Steve Simpson に Brendan O' Neill, Billy Nicholls, Geraint Watkins も加わった再結成 Slim Chance の 2010 年以降に収録した音源からのライブ二曲を含む 14 曲。二流センスの英国ロックというかフォーク・ロックというか、そのスタイルが身に染みついてしまって旨みたっぷりなゆるゆるの、これぞ愛すべき Slim Chance Music! 2021 作。Fishpool)
- *CHRIS BRAIN:Steady Away D
(Chris Brain の通算二枚目。冴え渡るギターと Nick Drake を想起させるヴォーカルとサウンド。Chris Brain の唄は自然の風景や鳥などを題材にした唄が多く、Nick Drake の陰鬱な資質とは異質だが、「内省的」な志向性で不思議に重なる。驚くのはギターのスタイルが多彩化していること。そのため英国フォーク的に音楽性の膨らみを生んでいて、音楽が豊かになった。2023 作。Big Sun)
- ※LP は歌詞付ですが、CD には付いていません。CD 購入者には LP に付いた歌詞をコピーして CD にお付けします。
- *COLIN MACDUFF:Seperations B
(看護師退職後に高齢 SSW としてデビューした Colin Macduff の新作で二枚目。本作のテーマは「別れ」。重いテーマだが、Colin の唄は、前作と同様に自身が爪弾く響きの良いギターの弾き語りベースにしているひたすら穏やかで優しい。彼の人生経験から生まれたとてつもなく優しい唄の魅力は計り知れない。音楽は人生経験そして心。w. Maria Quinn, Angus Lyon, Jenna Reid。2024 作。Gran's House Studio)
- *COLIN MACDUFF:The Past And The Sky B
(スコットランドの SSW の Colin Macduff の 2022 年のデビュー・アルバム。「デビュー・アルバムは遅すぎない」と自身が言う本作は、不思議な夜景のブックレットも自作の全 12 曲も夢色に染まっていて、どの唄もお休みソングのように心地よい。w. Angus Lyon, Jenna Reid 他。Colin Macduff)
- *JOHN B SPENCER:Left Hand Of Love A
(1998 年リリースの John B. Spenser [1944-2002]) のコンピレーション・アルバム。全 12 曲+ヒドゥントラック 1 曲。改めて聴いて驚いた。ゆるい曲調のナンバーばかりを選んだのだろうか。John B の唄は飄々として渋く、いわば米国ルーツ・ロック志向の二流センスの英国ロック。フォーク、ブルース、テックスメックス、パブロック、カントリー・ロック、オールドタイム等米国ルーツ・ロックの旨み成分たっぷり。コンピだが、一枚のアルバムとして魅力的。Round Tower)
- *NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow Z
(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年代の。Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中

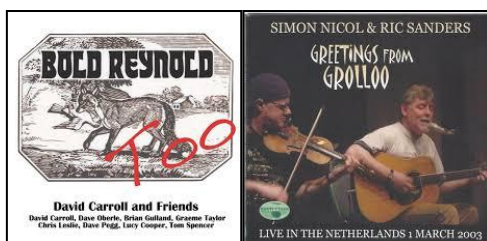
心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)

*HUW AND TONY WILLIAMS:Live

Y

(フォーククラブを中心に活動し、1980 年代から 90 年代に一世を風靡した Huw & Tony {兄弟ではないが、兄弟のように息の合ったハーモニー!} の 1997 年リリースの 19 曲入ライブ。心が和み、心穏やかにそして笑顔にする人のぬくもりのあるブリティッシュ・フォーク。Ralph McTell や Simon Nicol も大ファンというのには有名。R. McTell がメチャ好きだという "I Can Jump Puddles" や "Rosemary's Sister" や "We Stayed Awake" などほのぼのとデュエットしてます。気分ほっこり。T. C. S. Productions)

[CD/FAIRPORT&FRIENDS]



(David Carroll Too) (Simon Nicol & Ric Sanders)

*DAVID CARROLL AND FRIENDS:Bold Reynold Too

C

(早くも二枚目。本作も皆さん絶好調。前作同様に Fairport から Chris Leslie と Dave Pegg の二人に Gryphon から Brian Gulland, Dave Oberle, Graeme Taylor の三人。加えて Men They Couldn't Hang の Tom Spencer に女性シンガーの Lucy Cooper 等が共演。これまた前作同様にフェアポートのフォーク・ロックとグリフオンの中世ルネサンス・サウンド 寄りのフォーク・ロックを織り交ぜたフォーク・ロックでワクワク。彼らの音楽は単に寄せ集めの音楽ではない。David の素朴ながら味のあるヴォーカルを中心にバックিং・ヴォーカルを含めて大らかな一体感があって、Fairport と Gryphon の音楽の見事な融合を成しえていて、結果的に新たな英国フォーク・ロックを余裕綽々、豊かに創作している。終始祝祭ムード。2024 作。Talking Elephant)

*DAVID CARROLL AND FRIENDS:Bold Reynold

B

(David Carroll と Fairport & Gryphon の選抜メンバーとによる David Carroll & Friends の一枚目。David Carroll の心優しい人間性と Fairport や Gryphon の音楽への愛が詰まった心豊かなフォーク・ロック。2023 作。Talking Elephant)

*SIMON NICOL & RIC SANDERS:Greetings From Grollo

C

(2003 年 3 月 1 日オランダでのライブ。Ric Sanders のフィドルの演奏が付いた Simon Nicol のギター弾き語りの曲を中心に Ric Sanders のフィドルと Ric Sanders のギターのジャンルを超えたデュエット曲を加えた構成。"Crazy Man Michael" や "Rosemary's Sister" {Huw Williams 作} や "The Hiring Fair" {Ralph McTell 作} 等の名曲がギター & フィドルの素朴な伴奏で気分新たに味わえる。2003 年/2024 作。Radz)

*FAIRPORT CONVENTION:Live At The Howff 1973

B

(CD-R。20 年ほど前に販売した Dave Swarbrick 救援ブートレグ。Trevor Lucas, Dave Swarbrick, Jerry Donahue, Dave Pegg, Dave Mattacks から成る Fairport のロンドンのミュージック・ホール

“Howff”での1973年のライブ。“Rosie”{1973作}と“Nine”{1973作}からの選曲+Fotheringayから一曲“Ned Kelly”を加えた11曲。今聴いても手に汗握るFairport流フォーク・ロック。音質確認済み。1973年/2004作。FCHF73)

*FAIRPORT CONVENTION:From Past Archivess B
(CD-R。20年ほど前に販売したDave Swarbrick 救援ブートレック。1992年にイタリアで制作されたブートレックにボーナス曲一曲{2005年版“Down Where The Drunkards Roll”を加えた全17曲。Fairport初期のフォーク・ロック・パワー全開！音質確認済み。FCFPA2005)

※以下は通販リスト掲載の過去のコメント(転載)↓
(Swarb 救援ブートレック {CD-R)。いわばFairportの未発表ライヴ音源。ベス盤的内容。どのナンバーも感動的。ほとんどはBBC音源で全17曲中1~15曲目は1968~1974年録音で最後の2曲は1984年のCroproedyの録音。曲目は“Nottamun Town”, “Meet On The Ledge”, “You’ re Gonna Need My Help”, “Sir Patrick Spens”, “Tam Lin”, “Reynardine”, “Open the Door Homer”, “Sloth”, “Sickness And Diseases”, “Down Where The Drunkards Roll”, “She Moves Through The Fair”, “Like An Old Fashioned Waltz”, “Rising For The Moon”, “Down In The Flood”, “No More Sad Refrains”, “John The Gun”, “Doctor Of Physick”)

※追記: Sir Patrick Spens”でのヴォーカルはSandy Denny。

*SDP:Vol Two D
(SDP{Sandy Denny Project}はTradarrのMarion Fleetwood, Gemma Shirley, PJ Wright, Mark Stevens+Sally Barker [再結成Fotheringay, Poozies]のスーパー・フォーク・ロック・バンド。本作は二枚目で、Sandy DennyソングをTradarr流に新たな英国フォーク・ロックで創作したもの。リーダー格のPJ Wrightは{FotheringayII, The Dylan Project, Little Johnny England}は「忠実な複製を提供するトリビュート・バンドではなく、復活と再解釈、素材を楽しみ、Sandy Dennyの言葉では言い表せない称賛すべき唄に個々の特徴を加えることがすべて」と。鳥肌立つ素晴らしさ。2024作。SDP)

*TRADARR:Cautionary Tales C
(Sandy Denny ProjectのMarion Fleetwood, Gemma Shirley, PJ Wright, Mark StevensにGregg Cave, Guy Fletcher, Brendan O’Neillの七人組フォーク・ロック・バンド“Tradarr”の2015年のデビュー・アルバム。彼らが体現するのは“Liege & Lief”をベースにした今の時代のオリジナルな英国フォーク・ロック。男女のヴォーカルをはじめバンドの演奏もその気概が十分に発揮されていて、彼らのポジティブなフォーク・ロックは感動的。ゲスト: Dave Pegg, Chris Leslie, Rick Sanders, Jerry Donahue, Hedge Of Sound)

*LITTLE JOHNNY ENGLAND
:Greetings From Grolloo ¥2890(税込み¥3179)
(二枚組。Fairport/Fotheringayスタイルのフォーク・ロック・バンド“Tradarr”、“SPD”のリーダー格PJ Wright率いるフォーク・ロック・バンド“Little Johnny Enland”の2003年、オランダでのライブ。メンバーはPJ Wrigh, Gareth Turner, Guy Fletcher, Mat Davies{ベース}, Edd Frost{ドラムス}。Fairportスタイル+モ

- リス・ダンスの影響を受けた滅茶苦茶カッコいいフォーク・ロック。P16のブックレット付。全20トラック。2003年/2024作。Radz)
- *LITTLE JOHNNY ENGLAND: Little Jonny England A
(最高。2001作。Fellside)
 - *LITTLE JOHNNY ENGLAND: Mercs & Cherokees A
(最高。2001作。Fellside)
 - *RICHARD THOMPSON BAND: Historic Classic Concert
- Live In Nottingham 1986 C
(Richard Thompson Band{Richard Thompson, Clive Gregson, Christine Collister, Rory McFarlane, Gerry Conway}による発掘二枚組ライブ。ラジオ曲収録ライブで、“John The Gun”、“Shoot Out The Light”のほか全21曲。2024作。Store For Music)
 - *CARLA FUCHS: Songbird B
(本作は“Songs Of Sandy Denny”の旗のもと、ドイツ人のSSWでマルチ演奏家のCarla Fuchがサンディーが残した未完成の曲をオリジナルに完成させたもの。伴奏はピアノやギターの弾き語りやベースにしたシンプルな音作りで、Carla Fuchの唄の世界を優しく包む。どの唄にも新たに優しい命が宿っている。2023作。Talking Elephant)

[CD/ENGLAND]



(E. Carthy & J. Boden) (Jon Boden) (Chris Manner) (Home Service)

- *ELIZA CARTHY AND JON BODEN: Glad Christmas Comes C
(2023年リリースのEliza Carthy & Jon Bodenのクリスマス・アルバム。昨年タイミングが悪く、一年遅れての販売。今年は是非販売したいと思いつけていました。本作はWatersons→Waterson:Carthyが家族で受け継ぎ創作したイングランドのトラッドをその音楽性をベースにして、クリスマス音楽を素材にさらに豊かなトラッドを創作していき、二人のシンギングと演奏に付き添うミュージシャンはEmily PortmanとTim Van Eykenと生え抜き。加えてにモリス・ダンスのEwan Wardropとヨークシャーのバックステージ・ブラスの管楽器。トラッド回帰のElizaのシンギングとフィドル演奏は実に素晴らしく、かつ相方のJonのシンギングもElizaに呼応するかのように入魂のシンギングで圧巻。米国の曲が二曲。ゴスペルの“Beautiful Star”とJean Ritchie作の“Winter Grace”の二曲。これらの二曲がクリスマス・アルバムとしての本作の質を高めているように感じた。ちなみに“Winter Grace”は「年老いた牛の息は凍てつく風、休耕地の月は銀色に輝く♪」という冬の夜の情景をうたった唄。二人のアカペラと枯れた味わいのフィドルが身にしみる。Produce by Andy Bell。16曲。2023作。Hudson)
- *WATERSON: CARTHY: Broken Ground (1999作。Topic) A
- *JON BODEN & THE REMNANT KINGS: Parlour Ballads C

(Jon Boden の新作はビクトリア朝時代に全盛期を迎えたパーラー・ソング〔バラッド〕をタイトルしたアルバム。「用語の技術的な意味でのパーラー・ソングのコレクションではありません。古くて愛着のある、少し調子が狂った家庭用ピアノの音を呼び覚まし、親友との嬉しい再会を目指しています」〔ブックレットより〕という本作は、“On One April Morning”や“Bonny Bunch Of Roses”や“Rose Of Allendale”など約半数の曲は英国フォークやトラッド・ファンに馴染みの曲。Jon はビクトリア朝時代に想いを馳せ、一曲一曲を英国のフォーク・ソングとしてピアノを奏でながら、やや感傷的に朗々とうたう。その歌声は 2022 年に若くして亡くなった親友の Paul Sartin〔彼は本作に初期の段階で関わっていたという〕に届くようにうたっているかのよう。実際、本作は Paul Sartin に捧げられていて、Jon のシンギングには唄への一心さが感じられる。Remnant Kings〔Paul Sartin を除く、Rob Harbron, Sam Sweeney, Ben Nichols, Sally Hawkins, M. G. Boulter〕の演奏も心がこもっている。感動はジャンルを超える。Produced by Andy Bell。11 曲。2024 作。Hudson)

*JON BODEN: Songs From The Floodplain A
(デラックス・エディション限定盤。2009 作。Navigator)

*CHRIS MANNERS: Bar Doors And Bang The Shutters Down C
(英国の SSW でギター奏者の Chris Manner の四枚目。1970 年代以降数多くのギター弾き語りのフォーク・シンガーが産声を上げ、20 世紀後半の英国フォーク・シーンを盛り上げてきたが、彼のシンギングとギターはその時代の英国フォークの味わいと魅力を律儀に保持していて、時代錯誤感に襲われる。それほど彼のシンギングとギターは英国フォークのコアの魅力を純粋に保持していて、その上で独自のフォークを英国フォーク的に気高く美しく花開かせている。15 曲。ゲスト: Jon Loomes。2024 作。99YRCD04)

※素晴らしい歌、個性的なヴォーカル、美しいギター演奏。ここまで素晴らしいのに、他に何が必要だろう？ (Mark Radcliffe, The Folk Show, Radio 2)

※John Tams や Bill Caddick のような 20 世紀のフォーク・クラブの巨匠たちの伝統を受け継いでいる。(元 fROOT 誌の編集長 Ian A. Anderson) 以上 Chris Manners の HP より。

*HOME SERVICE: A Live Transmission C
(今年で結成 45 周年を迎えた Home Service の何と 8 年振りの新作。本作は今年の 3 月に行った三つのライヴ音源からのライヴ CD で、メンバーは大きく入れかわって、John Kirkpatrick もいなくなって、かつてのメンバーはエレキギターの Graeme Taylor〔Gryphon でも活動〕とドラムスの Michael Gregory のみ。高齢者 8 名編成。特筆すべきはヴェテラン・トラッド・シンガーの Bob Fox がリード・ヴォーカルでフロントに立ったこと。Bob Fox は Home Service 独特なブラス入りの、それも円熟のフォーク・ロックの真ん中で堂々たるシンギングを披露する。バンド全体として昔のようなノリノリ感は薄れてはいるものの、百戦錬磨の高齢者バンドならではの余裕綽々なフォーク・ロックを楽しませる。2004 作。Talking Elephant)

*HOME SERVICE: Live 1986 A
(John Tams がリード・ヴォーカルの Home Service 全盛時の 1986 年ケンブリッジ・フォークフェスでのライヴ。1996 年/2011 作。

Fledg'ling)

- *STEVE TURNER:Curious Times C
(これぞイングランドのトラッドの真骨頂!と豪語したくなる
ヴェテラン・トラッド・シンガーでコンサーティーナ奏者 Steve
Turner の新作。通算 9 枚目。自身が奏でるコンサーティーナをお
伴にゆるくコブシの利いた何とも味わい深いシンギングは、齢
を重ねた心あるシンガーのみが体得できる味わいだろう。
w. Martin Carty, Moira Craig, Rob van Sante, Liz Turner,
Allan Rose, Rikki Gerardy。全 13 曲。2023 作。Tradition Bearers)
- *THE ROSIE HOOD BAND:A Seed Of Gold C
(偽りの愛の物語“The Swallow”で幕開けする Rosie Hood Band~
Rosie Hood{ウォカ、ギター、ウクレレ、フィドル}、Nicola Beazley{フィドル、
ウォカ}、Rosie Butler-Hall{フィドル、ウォカ}、Robyn Wallace{メ
ロディオン、パーカッション、ウォカ}~の新作はイングランドの美しき女
性トラッド・シンガー・アルバムの魅力に充ち満ちていて、心奪
われる。「フォーク・エリート達の間で Rosie Hood の地位を真に
確立した黄金の輝きに満ちた素晴らしいアルバム」
{folking.com}。2023 作。Little Red)
- *NICK HART & TOM MOORE:The Colour Of Amber D
(トラッド・シンガーの Nick Hart が Nick Hart の各ソロ・アルバム
でエンジニアリング等を担当していた Tom Moore がヴィオラと
ハーモニウムの演奏で共演。Nick はフォーク・リバイバル以降に
陽の目を見たイングランドの豊富なトラッド曲からお気に入りの
曲を英国トラッド調で朗々とシンギングするのだが、音楽は
中世・ルネサンス音楽調。「このデュオによる最初のアルバムは
ここ数年の他の英国の伝統的なアルバムよりもはるかに優れて
いる」{folkradio}。2023 作。Slow Worm)
- *THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER C
(コンサーティーナ奏者でモリス・ダンサーだった William
Kimber {1872-1961} の未発表曲多数含む 32 曲収録マルチメディア
機能付 CD。2 冊の解説書付。1999 作。EFDSS)
- *CHRIS FOSTER:Outsiders A
(Nic Jones 他の名シンギングで著名なチャイルド・バラッドの名
曲 “Lord Bateman” で厳かに幕開けする英国屈指のトラッド・
シンガーの 2008 年作。英国風味香る自身のギターの弾き語りを
要にした英国トラッドの香りに満ちた美しいトラッド・アルバ
ム。ROOTS 誌の 2008 年年間ベスト・アルバム第二位。今聴いても
惚れ惚れ。Green Man)
- *THE DOVETAIL TRIO:Bold Champions A
(Rosie Hood{ウォカ}、Jamie Roberts{Gilmore & Roberts/ウォカ
ル、ギター}、Matt Quinn{コンサーティーナ、ウォカ}の一姫二郎のイング
ランドのトラッド・ユニットの Dovetail Trio の 2019 年作の二枚
目。イングランドのトラッドの伝統的スタイルに立ち返るトリ
オのシンギングとサウンドに気分リフレッシュし、心洗われる。
GR)
- *NICK WYKE AND BECKI DRISCOLL:A Handful Of Sky A
(男女の二人組の Nick & Becki による 2014 年作。双方がイング
ランドのトラッド・シンガーとして魅力的なシンギングを聴かせ
る上に二人がデュオで奏でるダンサブルなフィドルが新鮮で
快い。またヴィオラに持ち替えれば重厚感が生み出される。イ

ングランドのトラッドの気品と香りに満ちた英国トラッドの快作。(WildGoose)

*THE CANNON HILL IRREGULARS:In Their Prime Z
(Anthony Ingle, Graeme Taylor, Michael Gregory, Jon Davie の四人 {短期間を含め三人が Albion Band の元メンバー} のツワモノから成る The Cannon Hill Irregulars の 2017 作。英国フォーク&カントリーダンス・バンドのフォーク・ロックの何と魅力的で楽しいこと！言うなれば Albion Dance Band~Albion Band 系フォーク・ロック・スタイルで存分にフォーク・ロックしていてメチャ最高！Talking Elephant)

*PETE CASTLE:False Waters Z
(フォーク蒐集家&研究家でトラッド・シンガーの Pete Castle の 1995 年作。イングランドを中心にアイルランドや英国のトラッド/バラッドをギター等の弾き語りを中心に家族他と演唱した本作は「これぞイングランドのトラッド！」の輝きを放っていて感涙。14 曲。Steel Carpet)

*BOB PEGG:The Last Wolf Z
(元 Mr. Fox で元妻の Carole Pegg や Nick Strutt との共演盤が素晴らしい Bob Pegg の 1996 年作のソロ二枚目。本作は前作から 20 年の間の成果を厳選してまとめたアルバムで、曲のテーマは様々だが Bob Pegg の不思議な物語の世界へ誘うのに適したヴォーカルは最高潮で、見事に Bob Pegg 流ブリティッシュ・フォークの世界を創作している。ゲスト:Chris Coe,Rhiannon)

[CD/SCOTLAND]



(Alison McMorland)

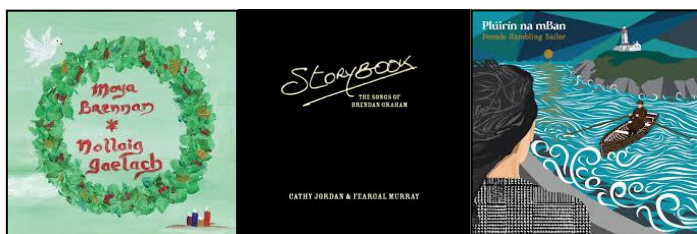
(Trail West)

*ALISON McMORLAND:Some Ballads Of Anna Gordon
Mrs. Brown Of Falkland ¥2890(税込み¥3179)
(二枚組 CD。1977 年のアルバム・デビューからスコティッシュ・トラッド・シンガーとして地道な活動をしてきた Alison McMorland の新作はバラッドの収集家のフォークランドのブラウン夫人こと Anna Gordon {1747-1810} が収集したバラッド集。Anna Gordon は彼女の母や叔母やメイドから 52 曲を教わったという。Alison McMorland は二人の女性トラッド・シンガー、Jo Miller と Kirsty Potts に加えて、Alasdair Roberts {ギター}, Owen Sutcliffe {フルート}, Daniel Thorpe {フイドル} のささやかなサポートを得て、Disc 1 は 6 曲、Disc 2 は 6 曲の合計 12 曲を収録。各曲の収録時間は一番短い“The Baron Of Braikly”の 4 分 56 秒で一番長いのは“The Cruel Sister”の 17 分 5 秒。6~7 分代の曲が 5 曲。Alison のシンギングは終始気高く美しい。その心のこもったシンギングの孤高さは、1970 年代、Topic や Trailer から世に送り出された純トラッドの名作に通じる味わい。見開きジャケットの美しいパッケージ仕様で、P42 の歌詞付ブックレットは解説書にもなっている。2024 作。AGB01)

- *TRAIL WEST:Thirsty Work D
 (西ハイランド地方とその島々の出身者から成る六人組フォーク・ロック・バンド“Trail West”の新作で通算五枚目。彼らは2023年のスコッツ・トラッド・ミュージック・アワードで“Live Act Of The Year”に輝き、来年結成15周年を迎えるという。結成時はケーリー{ダンス}バンドだったという彼らの音楽は、そのダンスの躍動感をロックの方向に洗練していったかのようにダイナミックなスコティッシュ・スタイルのフォーク・ロックを体現していて圧倒される。ヴォーカルは Jonathan Gillespie と Seonaldh MacIntyre の男性二人。いかにもスコティッシュ・シンガーらしい堂々たるヴォーカルでこれまた圧巻。音楽からスコティッシュ臭が立ち上がっている。生で聴いたら狂喜必至かな。2024 作。TW)
- *HOLLY & THE REIVERS:Three Galleys C
 (James Fagan が「Holly はフォーク界の新星だ」と一押しする女性トラッド・シンガーの Holly Clarke {ヴォーカル、ギター} と James の妻の Nancy Kerr が「素晴らしい音楽の語り手。徹頭徹尾Aクラス」と絶賛するニューカッスルの男女のデュオ“*The Reivers*”～ Bertie Armstrong {ヴォーカル、バソーン、ラップ・スティール} & Marle Harbron {ヴォーカル、フィドル、ハンマダルマー} ～が組んだトリオ。2023 作。Holly & The Reivers)
- *COAST:The Turning Stone Z
 (Runrig クラスのフォークロック・バンド。Paul Eastham のヴォーカルも抜群。ゲスト:Duncan Chisholm。2011 作。Ruabhal)
- *RUNRIG:In Search Of Angels Y
 (最高のスコティッシュ・フォーク・ロック。1999 作。Sony Music)
- *RUNRIG:The Essential Runrig X
 (1979 年から 1996 年までの音源からの 16 曲収録コンピレーション。2007 作。Capitol)
- *MAIRI SINE CHAIMBEUL:Thall An Loch Aillse X
 (Mod の優勝者でスコットランドのゲール語の女性トラッド・シンガーの Mairi Sine Chaimbeul の 2007 年作。w. Mary Ann Kennedy, Seoras Campbell, Findlay Napier, Hamish Napier, Ali Hutton, James Graham, Gillebride MacMillan。2007 作。Macmeanmna)

[CD/IRELAND 系]

デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。



(Moya Brennan) (C. Jordan & B. Graham) (Plúirín na mBan)

- *MOYA BRENNAN:Nollaig Gaelach C
 (Clannad の Moya Brennan のクリスマス・アルバム。昨年末にリリースされたデジタル・アルバムがめでたく CD 化された。以前にも“An Irish Christmas”というクリスマス・アルバムをリリース

しているが、Clannad 流ケルテック・サウンドで化粧された前作に較べて、曲は基本的にアイリッシュ・ハーブの弾き語りにも音を重ねた音作りが成されていて、Moya 特有のケルティックな幽玄さを保持しつつ、化粧度は控えめで、より素の Moya っぽいというか、よりアイリッシュっぽい。加えて、クリスマスの華やかさは控えめで、祈るような哀感が漂っている。ちなみに Moya は 2021 年に兄 Leon を、2022 年には叔父 Noel {Clannad の創設メンバー}、父 Leon それに Noel の双子の兄弟 Pdraig を亡くしていて、自作曲の "I Still Believe" はクリスマスの喪失感を唄にしたもの。ラストはハーブの弾き語りでもゲール語による「きよしこの夜」。聖夜な気分で静かに幕。齢を重ねて至った境地から生まれた独自のクリスマス音楽。2023 年/2024 作。Beo)

*CATHY JORDAN & FEARGAL MURRAY: Storybook C
(副題 "The Songs of Brendan Graham"。およそ 30 年前、Dervish の Cathy Jordan は Brendan Graham という人物から自身の初小説のために作ったという唄をレコード化して欲しいとデモを渡されたという。そして時が過ぎて、何年ものあいだピアニストの Feargal Murray と録音をするうちに Feargal が人々の人生がうたわれた Brendan Graham の唄の重要性を教えたという。Feargal の流麗なピアノの伴奏を伴にした Cathy の唄は清く輝いている。唄には人生の悲喜交々がうたわれていて、Cathy の繊細な表現力が素晴らしい。Cathy 曰く「これらの唄が未来の伝統歌になることを期待する」と。2024 作。Half Door Songs)

*PLÚIRÍN NA MBAN: Female Rambling Sailor C
(Dervish の Cathy Jordan {ヴォーカル、ブズーキ、バウロン他}、Claudia Schwab {フィドル、ヴォーカル、ハーモニウム、親指ピアノ他}、Irene Buckley {キーボード、ヴォーカル他} の女性トリオの耳に新鮮な魅力的なデビュー作。アイリッシュ・トラッドをベースに、自由な発想で女性目線の想像力豊かなアイリッシュ・ミュージックを創作。トラッドで鍛えた Cathy シンギングはかつてなく伸びやか。まるで Dervish の音楽から解き離れて開放気分を楽しみ、かつ別ジャンルの女性ミュージシャンと未知の協演と創作を楽しんでいるかのよう。2023 作。Plúirín na mBan)

※古代の歌詞とフィドルのディレイ音と融合した雰囲気のある持続音が私たちに恐ろしい幽霊の物語に引き込み、一方、足踏みするバウロンのリズムが、愛する人に結婚を説得しようとする船頭の努力に寄り添います。(Plúirín na mBan の HP より)

*MOLLY DONNERY & THE CIDERHOUSE REBELLION
: A Little Bit Slanted ¥3150 (税込み ¥3465 円)
(歌詞ブックレット + CD セット。本作は受賞歴のある女性アイリッシュ・トラッド・シンガーの Molly Donnery と英国の男性二人組の Ciderhouse Rebellion ~ Murray Grainger {アコ} & Adam Summerhayes {フィドル} へのコラボ・アルバム。ゲール語と英語とでうたう Molly のアイリッシュ・ソングは軽やかで清々しく、Ciderhouse Rebellion の二人は Molly のメチャ素晴らしいシンギングと楽器で響き合うような演奏をしていて、Molly の美味シンギングをナチュラルに高めている。奇跡の逸品。2024 作。Under The Eaves)

*CUAS: Cuas C
(Cuas は Seamus Begley の娘の Méabh Ní Bheaglaoich {ヴォーカル、アコ}、

Nicole Ní Dhubhshláine [コンサ-ティ-ナ、フル-ト], Niamh Varian-Barry [ヴ-ォ-カ、フイ-ド-ル他], Kyle Macaulay [ギ-タ-、ブ-ズ-キ] から成るアイリッシュ・グループ。本作は友人や家族の前で録音されたライブ・アルバムで、ノセノセの音楽も空気感も滅茶苦茶アイリッシュなライブ感に充ち満ちていて、大盛り上がり。Méabh のゲーリック・シンギングの二曲と Méabh & Niamh のデュエットの一曲の計三曲はアイリッシュ・トラッド・シンギングは清楚なシンギングで感動的。2024 作。Cuas)

*ELIXIR: Elixir C

(録音は 1983 年 10 月と 1984 年 3 月。本作はブルターニュのシンガーでティンホイッスル、フルート奏者の Pol Huellou の呼びかけで集まったミュージシャンによるセッション・アルバム。集ったのは Liam Weldon [ヴ-ォ-カ], Sean Howley [ブ-ズ-キ], Brian O' Donoghue [ギ-タ-], David Hopi Hopkins [ハ-ウ-ン] の四名。呼びかけ人の Pol Huellou のティンホイッスルの演奏が素晴らしく、ブズーキ、ギター、バウロンの演奏も誘発されるように見事な演奏を繰り広げる。Liam Weldon の貴重シンギング二曲収録。1984 年 /2021 作。Goasco Records)

*THE McGOLDRICK FAMILY: One For The Road C

(Michael McGoldrick と彼の姪三人とによる新作。いつもとちよっと違う Michael McGoldrick。フルートの演奏がメインだが、イリアンパイプス、ティンホイッスルに加えて、ギター、ベースにヴォーカル [ハ-ツキ-グ・ヴ-ォ-カだが] までやっていて、スリリングな演奏もあるものの、何より家族でアイリッシュを演唱して楽しむこと！そんな楽しさがバッチリ楽しめる気分ホッコリ & 笑顔なアイリッシュ。クレジットにはない 12 曲目は Michael の父親で名ティンホイッスル奏者 Brendan McGoldrick によるティンホイッスル・ソロ。2024 作。Boxroom Music)

*JOHN CARTY & MICHAEL MCGOLDRICK: At Our Leisure B

(John Carty [ハ-ン-ジ-ョ-、フイ-ド-ル] と Michael McGoldrick [イリアンパイプス、フルト他] によるデュオ・アルバム。本作はバンジョーとイリアンパイプスのデュエットを中心にした伝統音楽回帰的なアイリッシュ。英国に移住したアイルランド移民達によって演奏されていたアイリッシュなどどこかアットホームで親近感を覚えるアイリッシュ。2022 作。Racket)

※↑ ジャケも CD も新品ですが、ジャケットの隅に何かで押したような痕が数カ所あります。

*CILLIAN VALLELY & DAVID DOOCEY: The Yew & The Orchard C

(Lunasa のイリアンパイプス奏者の Cillian Valley と Grada のフィドル奏者の David Doocey のデュオ・アルバム。ふたりが奏でるアイリッシュの見事さは言葉を失うほど。イリアンパイプスとフィドルによるアイリッシュの魅力が詰まっている。全てが超一流。Sean Og Graham の巧妙なギターもお見事。2023 作。Cillian Vallely & David Doocey)

*TEADA: Coisceim Coiligh B

(ゲストに Séamus Begley [4 曲参加] を迎えて制作された Teada の結成 21 周年を祝う 2022 年作。フィドル、ボタン・アコーディオン、フルート、ギター、ブズーキ、バウロン、キーボードによるアイリッシュは音楽が多彩でスローテンポからミディアムテンポそしてアップテンポまで縦横無尽。その職人芸は驚くばかり。さらに

- 生前最後の録音記録と思われる Séamus Begley の柔和なゲーリック・シンギングが涙を誘う。最高のアイリッシュ！Gael Linn)
- *THE LARK ON THE STRAND:The Lark On The Strand C
(本作は 2000 年一月に Sesoaimhín Ní Bheaglaíoch {Macalla/ガォーカ}, Charlie Piggott {De Danann/アコ}, Peter Browne {1691, Bothy Band [Paddy Keenan の代役] /イリアンパイプス}, Gerry Harrington {フィドル} が“The Lark On The Strand”の名でアイルランド・ツアーをしたときのライヴ・アルバム。アイリッシュ・ミュージック界のプロフェッショナル三人によるアイリッシュは、様々なタイプのダンス曲をあの手この手の名演奏で舌鼓を打たせる。加えて Sesoaimhín の滋味豊かなゲール語のシンギング付。全 34 曲！2000 年/2022 作。LOTS001CD)
- *LILLEBJORG NILSEN・ANDY IRVINE:Live In Telemark C
(本作は 1994 年にノルウェーのフォーク・フェスでの Andy Irvine とノルウェーの SSW の Lillebjorn Nilsen の共演ライヴ。2020 年作。Heilo)
- *PADDY KEENAN・TOMMY O' SULLIVAN:The Long Grazing Acre Z
(Bothy Band の創設メンバーでにイリアンパイプ奏者の Paddy Keenan とギリスト兼シンガーの Tommy O'Sullivan のコラボ・アルバム。2001 作。Hot Conya)
- *TOMMIE CUNNIFFE:Unbuttoned Z
(ロスカモン出身のアコ奏者の 2007 年作。クレアとゴールウェイ曲が多いが、飛び跳ねるリズムの一音一音が絶え間のないメロディーとなって気持ちよく滑空する。職人芸。TommiECuniffE)
- *GERRY O' CONNOR&GILLES LE BIGOT:In Concert Z
(La Lugh の Gerry O' Connor {フィドル} とブルターニュ屈指のギター奏者 Gilles の 2005 年 12 月ブルターニュでのライヴ CD。「変幻自在、緩急自在」という言葉が相応しい Gerry の空前絶後のアイリッシュ・フィドルの名演奏が矢継ぎ早に展開される。2006 作。Lughanasa Music)

[CD/USA {Celtic, Trad}]

- *JEFF WARNER:Roam The Country Through Z
(フォークソング収集家でフォーク・シンガーの Anne & Frank Warner 夫妻の息子 Jeff Warner の 2018 年のソロ。Jeff のスタイルは米国の古謡に忠実なスタイルで、ギターやバンジョーやコンサーティーナを奏でながらうたう唄は、そのまま米国古謡の素朴な味わいに充ちていて、うっすら英国古謡の世界へとつながる味わいの唄もある。Pete Coe の音楽パートナーでトラッド・シンガーの Alice Jones が大半の曲でヴォーカル・ハーモニーとホイッスルなどの演奏で共演。17 曲。WildGoose)

[CD/SWEDEN]

- *LJUS OCH LYKTA:Ljus Och lykta B
(三姫一太郎の四人組トラッド・バンド“Ljus Och lykta”の爽快デビュー・アルバム。曲目のほとんどはスウェーデン舞台芸術庁のアーカイブ。コレクションで見つけ出したトラッド曲だそうだが、彼らは若々しく自由闊達なソロ・シンギング&ハーモニーで数々の伝統歌を生き返らす。伴奏楽器はフィドルとギター。スウェーデンのトラッドの香り立つフィドルが良い感じで北欧ト

ラッド色を高めている。2022 年。Caprice)

*HOVEN DROVEN:Trad Z
(Trad と題された Hoven Droven の 2021 年作。1989 年結成以来、30 年以上にわたってスウェーデン・スタイルのフォーク・ロックを果敢に創作してきた彼らが初心の帰りつつ、腕を上げた演奏力と表現力で取り組んだ 30 周年記念アルバムの性格の快作。Heilo)

*DOGGERLAND:No Sadness Of Farewell Y
(英国人 Richard Burgess {ヴォーカル、コンサーティナ、ギター他} とスウェーデン人北欧トラッドの名演奏家 Anders Ådin {ギター、ハーモニカ、デッド} の二人組 "Doggerland" の 2017 年作。英国フォーク & トラッド的感性なのだが、北欧の自然環境や生活やトラッドの影響だろう。感性が清々しくて、夢想的というか、Richard のシンギングもイングランド、北欧トラッド混在のアコースティック・サウンドも、その究極の美しさに息をのむ。w. Kevin Henderson, Mats Eden, Westpark)

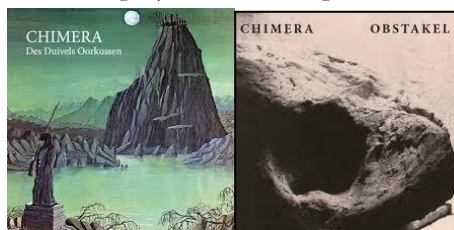
[CD/NORWAY 他]

*JUNI HABEL:Carvings C
(ブリティッシュ・フォーク・タイプのノルウェーの女性 SSW、June Habel の 2023 年作。ほとんどの曲を祖母の家で録音をしたという本作は、さざなみのようなギターが特徴的なギターの弾き語り、心を鎮め密やかにうたう彼女の唄の世界にじわじわと引き込まれる。バックিং・ヴォーカルを含め僅かな効果音的サウンドが施されているが、すべてが Juni の唄の世界に同化していて、トータルに音楽の質を高める効果を果たしている。極上の 70 年代ブリティッシュ・フォーク風 SSW アルバム。唄は英語。Basin Rock)

[CD/FINLAND]

*DANCHEV:DOMAIN:Say It C
(フィンランド系ブルガリア人の女性シンガーの Anna Dantchev をヴォーカルに据えた Anna を含めて五人編成バンド "Dantchev :Domain" の本作は、一種独特なブルガリアン・ヴォイスの音楽として結実している。その一種独特さは、バンドの音楽がブルガリアのリズムをベースにジャズやブルースとミックスした音楽で、Anna のブルガリアン・ヴォイスの特長を活かした自在なシンギングと異種交配サウンドの目新しさと醍醐味はドラマティックで鮮烈。2020 作。Glomama Music)

[CD/NETHERLANDS]



(Chimera 1st)

(Chimera 2nd)

*CHIMERA:Des Duivels Oorkussen D
(オランダの Stoof から発売されていたオランダの 5 人組トラッド・グループ "Chimera" の 1980 年作のデビュー・アルバムが目出度く

CD 再発。当時のタムボリンのベストセラー。美声ヴォーカルの Marry Verkade1 を要した彼らのトラッドは中世ヨーロッパ風のエレガントさを内包した魅惑のユーロ・トラッド。今聴いても、オランダ発ユーロ・トラッド風エレガントな情緒と優美さと新鮮さは不変。ユーロ・トラッドの名盤。1980 年/2024 作。Pan)

*CHIMERA:Obstake1

D

(Marry Verkade1 嬢のヴォーカルを含め、さらに充実度を高めた Chimera の 1981 年作の二枚目。目出度く CD 再発。英国トラッドなら Steeleye の二枚目や三枚目に相当する名盤。1981 年/2024 作。Pan)

[CD/ESTONIA]

*6HUNESSEQ:Ma Olen Maa Peal V66ras

C

(6hunesseq は女性四人エストニアの女性四人組トラッド・グループ。結成は 2021 年。ヴォーカルは Marion Selgall と Greta Liisa Grunberg の二姫。二人のソロ・シンギングとデュエットはフィンランドのヴァルティナのシンギング・スタイルに通じる印象だが、Marion と Greta の唄は控えめで優美で厳か。二人の唄もパイプオルガン、フィドル、タルハルパ{リラ型の弓奏弦楽器演奏}、タンバリン、片面太鼓等による民俗性豊かな伴奏も深い森の中に誘われるようなしっとりとした不思議感がある。二人の掛け合い唄も呪文のように聞こえる。北欧系トラッド・アルバムとして秀逸。2024 作。Nordic Notes)

*SILD:Tro

Z

(Sild はエストニアの女性シンガーでフィドル奏者の Silje Ilves とウェールズのギター、 Hammond オルガン奏者の Martin Leaman のデュオ。Silje の極北的で神秘的なシンギング{トラッド・シンガーとしてトップ・クラス}は絶品な上に、二人が奏でるアコースティック・トラッド・サウンドは厳かな深みがある。エストニアのトラッドとウェールズのトラッドとが彼ら流にナチュラルにブレンドされていて、トラッド・アルバムとして秀逸。Produced by Ceri Rhys Matthews。2008 作。Fflach)

[CD/SIBERIA]

*VEDAN KOLOD:Birds

C

(Vendan Kolod はロシアはシベリアのクラスノヤルスクの家族三名から成る民俗音楽グループ。シベリアやロシア西部の伝統歌を主なレパートリーで、言語は古ロシア語と古スラブ語。リード・ヴォーカルの Tatiana のヴォーカルはサーミ・シンガーの Mari Boine のヨイクのような呪術的な神秘性をたたえていて孤高。またカンテレ系古楽器のグスリや口琴や軍笛や各種打楽器などの古代ロシアの民族楽器のほかブズーキ、ギター、マンドリン、カリンバ等による土俗性豊かな演奏は、物悲しげで、不協和音に近いノイジーな音楽を奏でていて、異世界音楽のような独特な民俗音楽を創作している。全曲「鳥の唄」。歌詞英訳付き。2024 作。CPL-Music)

[CD/MORDOVIA]

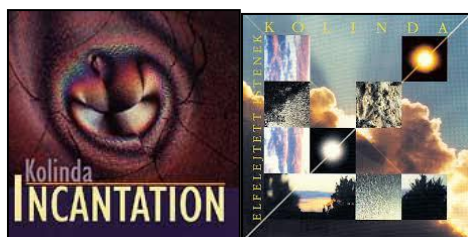
*MEREMA:Eryamon' Koytneva

C

(五姫と二太郎の七人組エレクトリック・トラッド・バンド

“Merema”の2022年作。これは強烈。メンバー達はモルドヴィアの村々で現地調査を行い、モルドヴィアの伝統的民謡を収集し研究。失われつつある民謡を女性シンガー達による伝統的な節回しと呪術的な響きのポリフォニー・コーラスで甦らす。唄も凄みがあるが、馴染みのない伝統楽器と家庭用品+電気楽器による土俗性豊かで斬新な演奏ももの凄い。眠りについていたご先祖様達も目を覚まして踊りだすかのようなおどろおどろしさだ。歌詞英訳付き。CPL-Music)

[CD/HUNGARY]



(Kolinda Incantation) (KolindaForgotten Gods)

*KOLINDA: Incantation

D

(Kolindaの1997年作。初仕入れ?メンバーはPeter Dabasi {ヴォーカル、マントチェロ、カヴァル他}, Dora Kovats {ヴォーカル、ヴァイオリン、フルート}, Gyorgy Róbert {リュウター、オーボエ}, Lilla Vírhegyi {ヴォーカル、ヴァイオリン、ガットゥカ他}, Peter Koszegi {タフルベース}。ハンガリーの民族音楽とバルカン半島の音楽とアラブ音楽等の音楽要素を混ぜ合わせた独創性のあるKolinda流ユーロ・トラッド/ワールド・ミュージック。Pan)

*KOLINDA:Forgotten Gods

D

(Kolindaの2000年作。初仕入れ??メンバーはKriszta Kováts {ヴォーカル}, Péter Dabasi {ヴォーカル、マントチェロ、カヴァル他}, Dora Kovats {ヴォーカル、ヴァイオリン、フルート} Peter Koszegi {タフルベース}, Lilla Vírhegyi {ヴァイオリン}, Tibor Pongrácz {パーカッション}, Csaba Gyulai {パーカッション}, Endre Juhász {オーボエ}。女性シンガーのKriszta Kovátsを迎え、汎東欧~西アジア的悠久感のあるKolinda流異種交配エキゾティック・ミュージックを創作。Pan)

*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe

G

(北欧の魔性的トラッドを彷彿させるフォーク・ロック・グループMeszezsinkaの2019年作。彼らの深淵な野性味と無国籍でエキゾティックな音楽は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つOláh Annamaria嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。孤高のハンガリー発フォーク・ロック。CPL-Music)

[CD/KLEZMER]

*DOBRANOTCH:Vander Ikh Mir Lustik

G

(Dobranotchはロシアのサンクトペテルブルク出身のクレズマーバンド。ロシアによるウクライナ侵攻後、バンド・メンバーの一部はドイツに亡命。ドイツで新たなメンバーを加えて再結成して制作したのが本作。フィドル、クラリネット、サクソ、バンジュー、チューバ、アコ、フルート、ツィンバロン、ドラムなどによる彼らのクレズマーはバルカン音楽やジプシー音楽や東欧音楽の要素を混ぜ込んだエネルギー溢るクレズマー。プロ根性は

半端じゃない。浮かれ気分の人達で賑わう村祭りにでも迷い込んだ気分。イディッシュ語とロシア語でうたう男性シンガーの唄も村祭り気分満点。歌詞英訳付き。2024 作。CPL-Music)

☆ ☆ ☆ ☆

その他色々

☆ ☆ ☆ ☆

※在庫各 1~2 枚。検品してお送りします。

(CD/Mandolin)

*DAVID SURETTE:The Green Mandolin X
(2008 作。Madrina Music)

(CD/USA, Singer&Songwriter ほか)

- *THE BEST OF MOUNTAIN STAGE "Volume Two Live" A
(June Tabor, Maura O'Connell, Delbert McClinton, John Prine, Jimmie Dale Gilmore, John WesleyHardin, REM, Billy Bragg 他。1991 作。Blue Plate)
- *LIVE FROM THE MOUNTAIN STAGE "Lounge" A
(Dan Hicks, Dave Van Ronk, NRBQ, Jane Siberry, Mose Allison, Holly Cole, Bob Thompson 他。1998 作。Blue Plate)
- *JERRY JEFF WALKER:iViva Luckenbach! A
(1994 作。Rykodisc)
- *MICHAEL SMITH:Michael Smith Love Stories A
(1986 作の"Michael Smith"と 1987 作の"Love Stories"の 2 in 1。1991 作。Flying Fish)
- *LIVE FROM THE MOUNTAIN STAGE "Lounge" A
(Dan Hicks, Dave Van Ronk, Mose Allison, Jene Siberry, NRBQ 他。1997 作。Blue Plate Music)
- *VINCE BELL:Texas Plates A
(ゲスト:Al Perkins, Maura O'Connell。1999 作。名盤。One Man's Music)
- *BEAVER NELSON:The Last Hurrah A
(ゲスト:Gurf Morlix, Michael Fracasso, Jules Shear。1998 作。Freedom)
- *JOHN HAMMOND:Trouble No More(1993 作。Virgin) A
- *JAMES McMURTRY:Too Long In The Westland A
(1989 作。Columbia)
- *BILLY C. FARLOW:Southern Moon(2001 作。Zane) A
- *KNIFE IN THE WATER:Red River(2000 作。Glitterhouse) Z
- *CALVIN RUSSELL:Sam(1999 作。Last Call) Z
- *ROSE OF JERICO:Rainravens(1999 作。Blue Rose) Z
- *HUGH MOFFATT:Live And Alone(1990 作。Brambus) Z
- *AD VANDERVEEN:The Moment That Matters Z
(ゲスト:Iain Matthews, Eliza Gilkyson, David Olney。お買い得。2003 作。Blue Rose)
- *DAVID POMEROY:Tomorrow Never Knows(2002 作。Earwave) Y
- *BIANCA DeLEON:Live : From Hell To Helsinki X
- *WILLIAM PINT & FELICIA DALE:Hartwell Horn X
(1999 作。Waterbug)

- *PAT GREEN:George's Bar X
(Produced by Lloyd Maines.1997 作.Pat Green)
- *LOCKGROOVE:Sleeping On The Elephant Fog X
(1999 作.Krave)
- *BRIAN LITTLE AND THE SQUIRREL MOUNTAIN ORCHESTRA
:Row Boats(1998 作.Thursday) X
- *GLENN YARBROUGH:Let The World Go By X
(2003 作.Brass Dolphin)
- *SANDRA PILLER:Days Like These(2010 作.Shady Hill) X

(サンプル CD/USA)

- *ROBERT EARL KEEN:The Party Never Ends Z
(バーコードに7~8ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
2003 作.Sugar Hill)
- *SAM PACETTI & GABRIEL VALLA:Union Y
(バーコードに7~8ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
2006 作.Waterbug)
- *JONATHAN BYRD:The Waitress X
(ジャケット裏のバーコードがマジックで消されたほぼ新品の
サンプル盤。2002 作.Jonathan Byrd)
- *JOHN ARTHUR MARTINEZ:Stand Your Ground X
(バーコードに7~8ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
2001 作.Jam)
- *BALL IN THE HOUSE:Ball In The House ¥300
(ジャケット裏に2ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
1999 作.Ball In The House)
- *YUMMY:Shecky! ¥300
(ジャケット表にサンプル盤を示すシールとジャケット裏に2~3
ミリの丸い穴のあいたほぼ新品のサンプル盤。1998 作。
SoftBrain)
- *RANAWAY CAB:On The Upside ¥300
(ジャケット裏に1~2ミリの丸い穴のあいたほぼ新品のサンプル
盤。1999 作.Runaway Cab)

(CD/USA {Trad, Celtic 他})

- *PATRICK BALL:Celtic Harp A
(“The Music Of Turlough O' Carolan”。1983 作.Fortuna)
- *BOILED IN LEAD:Alloy(二枚組。1998 作.Omnium) A
- *RANDAL BAYS WITH DAVE MARSHALL:Dig With It X
(2008 作.Randal Bay)

(CD/Canada)

- *BRUCE COCKBURN:Dart To The Heart(1994 作.True North) Z
- *TIM LAWSON:The Quiet Canadian X
(1997 作.Timberholme Music)

(サンプル CD/Canada)

- *CORBIN MURDOCH & NATUTICAL MILES:Tell Me Again
How This Place Got Its Name X
(バーコードに一ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。

2005 作。Corbin Murdoch)

(CD/UK {SSW, Folk, Rock})

- *DAVID HUGHES: Curtains C
(ゲスト: G. T. Moore, Mick Linnard, Ric Sanders。1992 作。
Hypertension)
- *SPIROGURA: We Were A Happy Crew (1999 作。Mooncrest) A
- *ROD CLEMENTS: One Track Mind A
(Lindisfarne, Jack The Lad の Rod Clements の 2001 年作。スライ
ド・ギター等を弾いて、南部フィーリングのいぶし銀の SSW アル
バム。Siren)
- *JOHN MARTYN: BBC Radio 1 Live In Concert Z
(1971, 1977, 1986 年のライヴ。1992 作。Windsong)
- *NAOMI BEDFORD: Tales From The Weeping Willow Z
(Songs Of Murder, Death And Sorrow。2011 作。Dusty Willow)
- *PHILLIP GOODHAND-TAIT & THE STORMSVILLE SHAKERS
: Ricky-Tick... 40 Years On (2005 作。SpanTV) Z
- *CLIVE GREGSON: I Love This Town (1996 作。Compass) Y
- *KIRSTY McGEE: Honeysuckle Y
(With Clive Gregson, Boo Hewerdine, Neill MacColl。2002 作。
Fellside)
- *MARTYN JOSEPH: Tangled Souls (1998 作。Grapevine) Y
- *THE NEW BUSHBURY MOUNTAIN: Peace And Justice Y
(1995 作。New Mountain Music)
- *ANDY WHITTLE: Old Fashioned Dream (2005 作。Folkwit) X

(CD/England)

- *FAIRPORT CONVENTION: Full House For Sale CD D
(2023 作。Matty Grooves)
- *CHRIS WOOD & ANDY CUTTING: Knock John (1999 作。RUF) C
- *JEZ LOWE: Live At The Davy Lamp A
(With The Bad Pennies。二枚組+CD Rom。23 曲。2000 作。Tantobie)
- *BALLADS A
(Traditional Ballads sung by Nic Jones, Linda Adams, Frankie
Armstrong, Maddy Prior, John Kirkpatrick, Martyn Wyndham
Read, Gordeanna McCulloch, Brian Peters, Gordon Tyrrell。
1997 作。Fellside)
- *DAVID ROTHERAY: Answer Ballads A
(Featuring Jackie Oates, Eliza Carthy, Kris Drever, Bella
Hardy, Alasdair Roberts, Julie Murphy, Lisa Knapp。2013 作。
Navigator)
- *HILARY JAMES: Burning Sun (1993 作。Acoustics) A
- *DOWN IN THE FIELDS "An Anthology Of Traditional Folk
Music From Rural England" (24 曲。2001 作。Veteran) A
- *BELSHAZZAR'S FEAST: The Food Of Love A
(二枚組。2008 作。WildGoose)
- *MABON: Ok Pewter (2007 作。Mabon) Z
- *JONNY KEARNEY & LUCY FARRELL: The North Farm Sessions Z
(ゲスト: Rachel Unthanks。2009 作。Rabble)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Shadows & Half Light Z

- (2008 作。Gilmore)
- *BENJI KIRKPATRICK:Half A Fruit Pie(2004 作。Fellside) Z
 - *JOHN JONES:Rising Road(2009 作。Westpark) Z
 - *BRAM TAYLOR:The Nights Is Young(2004 作。Fellside) Z
 - *JULIE MATTHEWS:Such Is Life Z
(ブックレット経年劣化。With Francis Black, Ashley Hutchings,
Christine Collister, Ken Nicol, Chris While。1996 作。Road
Goes On Forever)
 - *ASHLEY HUTCHINGS:The Guv' nor's Big Birthday Bash Z
(2001 作。Talking Elephant)
 - *ALBION CHRISTMAS BAND:One For The Road Y
(2013 年、Albion Christmas Band{Ashley Hutchings, Simon
Nicol, Kellie While, Simon Care}が結成 15 周年を記念して行
ったツアーの中から、その年の 12/12 にロンドンの Kings Place
でのライブを収録したアルバム。19 トラック。2014 作。Rooksmere)

(CD/Scotland, England)

- *COLD BLOW THESE WINTER WINDS "A Celtic Celebration Of
Christmas A
(エディンバラでのライブ。Karine Polwart, Eliza Carthy, Mary
MacMaster, Rory McLeod, Corrina Howat, Aaron Jones, Rory
Campbell, Marianne Campbell 他。2004 作。Green Linnet)

(CD/Ireland {SSW, Folk, Rock})

- *ANNE RYNNE:Anne Rynne B
(Christy Moore の妹の Anne Rynne のソロ。with Luka Bloom{プロ
デュース}2016 作。Big Sky)
- *ANNE RYNNE:Oh Life!(2019 作。Anne Rynne B
(Christy Moore の妹の Anne Rynne のソロ。with Luka Bloom{プロ
デュース}2016 作。Big Sky)
- *JOHN SPILLANE:Hey Dreamer(2005 作。Hypertension) Z
- *SINEAD LOHAN:No Mermaid(1998 作。Grapevine) Z
- *SAW DOCTORS:The Cure(2005 作。Shamtown) Z
- *SINEAD LOHAN:No Mermaid(1998) 作。Grapevine) Y

(CD/Ireland 他)

- *PETER CARBERRY & PADRAIG McGOVERN:Forgotten Gems A
(2013 作。CM2013)
- *SEAN O RIADA:O Riada Sa Gaiety A
(ボーナス曲 3 トラックを加えた 15 トラック。Ceoltoiri Chualan
& Sean O Se。1970 年/2005 作。Gael-Linn)
- *BOYS OF THE LOUGH:Twenty(2005 作。Lough) A
- *LIZ CARROLL & TOMMY MAGUIRE:Kiss Me Kate A
(1995 作。Shanachie)
- *DEIRBHILE NI BHROLCHAIN:Smaointe A
(ゲスト:Brendan O'Regan, Mairtin O'Connor, Steve Cooney,
Tommy Keane, Vinnie Kilduff。1990 作。Gael-Linn)
- *FRANKIE GAVIN・PAUL BROCK:Omos Do Joe Cooley A
(“A Tribute To Joe Cooley”。1986 作。Gael-Linn)
- *RONAN BROWNE AND PETER O'LOUGHLIN:The South West Wind A

- (1998 作。Claddagh)
- *SLIDE: Harmonic Motion (2003 作。Slide) A
 - *NORTH GREGG: Summer At My Feet (2003 作。Greenrux) A
 - *SEAN McGUIRE: On Two Levels A
(CD-R。1978 年/2002 作。Rubber)
 - *MARY McPARTLAN: Petticoat Loose (2008 作。Mac P Prod) A
 - *PETER CARBERRY・ANGELINA CARBERRY・JOHN BLAKE
: Memories From The Holla A
(ゲスト: Laoise Kelly, Liz Kane。1998 作。HRCD001)
 - *FINGAL: Fingal Z
(James Keane, Randal Bay, Daithi Sproule のトリオのデビュー
作。2008 作。New Folk)
 - *IARLA O LIONAIRD: Invisible Fields (2005 作。Real World) Z
 - *MARIE WALSH: The Red Box (2005 作。Owenglen) Z
 - *DAVID MUNNELLY: Swing... Z
(ゲスト: Sharon Shannon。2001 作。Hummingbird)
 - *CHULRUA: Barefoot On The Alter (1999 作。Pied Piper Prod) Z
 - *CHULRUA: Down The Back Lane (2003 作。Shanachie) Z
 - *SEAMUS WALSHE: Clare Accordion Y
(ゲスト: Brendan Larrisse, Tommy Hayes, Jimmy Higgins。1996
作。Ceol Music)
 - *BORDER COLLIES: Unleased (2004 作。The Border Collies) Y
 - *KATHLEEN O' SULLIVAN: Born On St Patrick's Day Y
(London Lassies のシンガー。2004 作。LoLa)
 - *BRUADAR: Bruadar (2000 作) Y
 - *PATRICIA DALY: The Rolling Wave Y
(アイリッシュハーブ。2004 作。Patricia Daly)
 - *JOE DERRANE・SEAMUS CONNOLLY・JOHN McGANN
: The Boston Edge (2004 作。Mapleshade)
 - *SEAN O' DRISCOLL AND LARRY EGAN: The Session Recordings Y
(2003 作。Clo Iar Chonnachta)
 - *OSNA: Osna (1999 作。Celtic Note) X
 - *MARTIN BURKE, RONAN BURKE & TORLOGH BURKE
: Amhrain M' athar - My Fathers Songs X
(2003 作。Coipcheart)
 - *IRISH FAVOURITES X
(Tony MacMahon & Noel Hill, Frankie Gavin & Charlie Lennon,
Jackie Daly & Seamus Creach, Mairead Ni Mhaonaigh &
Frankie Kennedy 他。16 トラック。2001 作。Forever Gold)
 - *CHAMPION OF IRELAND ACCORDION X
(Featuring Irish Champion Denise Shiels。2000 作。Connoisseur)
 - *CLANNAD: Magical Ring A
(ボーナス曲一曲付きの Deluxe Edition 版。1983 年/2003 作。BMG)
 - *CLANNAD: The Best Of Clannad "In A Lifetime" A
(ボーナス CD 付き二枚組。全 26 曲 2003 作。BMG)
- (サンプル CD/Ireland)**
- *BILLY McCOMISKEY: Outside The Box X
(バーコードに 5 ~ 6 ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
2008 作。Compass)

(CD/Finland)

- *TROKA:Troka(1998 作。NorthSide) Z
- *HARV:Direktor Deg(2006 作。NorthSide) Z
- *WIMME:Barru(2003 作。NorthSide) X

(CD/Sweden)

- *OLOV JOHANSSON:I Lust Och Glod(2007 作。Drone Music) A
- *HOVEN DROVEN:Hippa Y
(Hoven Droven のの 2001 年作。Home)
- *HOVEN DROVEN:Turbo Y
(Hoven Droven のの 2004 年作。Home)
- *GUNNEL MAURITZSON:Raisu Aut Y
(Gunnfjauns Kapel や Nara のシンガーの Gunnel Mauritzson の
2003 年作。with Roger Tallroch, Hans Kennemark, Rickard
Astrom。Xource)
- *JORD:Vaylan Virrassa Y
(“Musik Fran Tornedalen”。一姫三太郎のトラッド・グループ。
唄はスウェーデン語とフィンランド語。2002 作。Caprice)
- *JUNEKVINTETTEN & MARLA KEOHANE:Folkmusic I Frack 3 X
(2008 作。Intim Musik)

(CD/Norway)

- *SINIKKA LANGELAND:Strengen Rode Guld C
(Medieval Ballds From Norway。1997 作。Grappa)
- *FARMERS MARKET:Musikk Fra Hybridene A
(1997 作。Kirkelig Kulturverksted)

(CD/Denmark)

- *TRIO MIO:Pigeon Folk Pieces(2005 作。Go') Y
- *INSTINKT:Grum(2006 作。Go') Y
- *KASIR:Reel Irish(2006 作。Go') X
- *GUNNER FRIIS:Kalejdoskop X
(フィドル奏者 Gunner Friis の 2005 年作。Go')

(サンプル CD/Denmark)

- *SVOBSK:Sig Mig X
(ディスクに“Promotion Only”と記されたほぼ新品のサンプル盤。
2005 作。Go')

(CD+DVD/Belgium, Flanders) PAL Region 2

※PAL 方式再生可能 DVDプレーヤー/パソコンでのみ再生可能

- *RUM:1972~1978 D
(ベルギーのトラッド・グループ° Rum の 72 年 74 年 75 年 78 年発売の 4 枚
のアルバム収録の 2 枚組 CD とライブ DVD のセット。1972 年, 1974 年,
1975 年, 1978 年/74/75/78/2005 作。Universal)

(CD/Belgium, Flanders)

- *HELEN FLAHERTY:Oft Times I've Been Cheery C
(Shantalla のヴォーカルの Helen のソロ。2004 作。Wild Boar Music)

- *FABIAN BEGHIN·DIDIER LALOY:Cryptonique X
 (クロマチック・アコーディオンとダイアトニック・アコーディオンのコラボ。2006 作。Homerecords)
- *DIDIER FRANCOIS:Sjansons Patinees (2000 作。Homerecords) X

(CD/France)

- *ANNE DE BRETAGNE "Live Au Chateau Des Ducs De Bretagne"
 ¥2890 (税込み¥3179)
 (ブルターニュでのライブ三枚組。Fairport Convention{11 曲},
 Celile Corbel{5 曲}, Tri Yann, 他。2010 作。Babaika Prod)
- *MALICORNE:Concert Exceptionnel Aux Francofolies De
 La Rochelle A
 (Malicorne|Gabriel Yacoub, Marie Yocoub, Hughes De Courson,
 Laurent ercambre, Olivier Kowalski}による 2010 年のライブ。
 14 トラック。2010 作。Artsudio)

(CD/Spain)

- *PACO DIEZ:Romances De Caballeros Y Doncellas Z
 (スペインのロマンセ集。Joaquin Diaz 風柔和で気高く滑らかな
 ヴォーカルに汎アラブ=地中海音楽絵巻的サウンド取り込み、エ
 キゾティックな香り高いロマンセ音楽を創作。2007 作。Several)
- *PACO DIEZ:Mas Que Un Oficio Y
 (Musicas Tradicionales。1997 作。Several)
- *LUIS DELGADO·JAVIER BERGIA:Todos Estos Anos... Y
 (1995 作。Sonifolk)
- *HABAS VERDES:En El Jardin De La Yerba Buena Y
 (Musicas Tradicionales。1996 作。Several)
- *LEE WOLFE & THE BLUES RANGERS:The Fireman X
 (Musicas Tradicionales。1998 作。Several)

(CD/Basque)

- *SOROTAN BELE:Mundu Hegian Y
 (バスクのフォーク・ロック・バンド"Sorotan Bele"の 1994 年作。
 Elkar)

(CD/Galicia)

- *MERCEDED PEON:Siha(名盤。2007 作。Discmedi) A
- *BERROGUETTO:Navicularia(1996 作。Do Fol) A
- *BERROGUETTO:Hepta(2001 作。Do Fol) A
- *BERROGUETTO:Hepta(ボックスケース仕様。2001 作。Do Fol) C
- *SEIVANE SUSANA:Alma De Buxo A
 (ガリシアの女性ギター奏者の 2002 年作。ゲスト:Rodrigo Romani。
 Boa)
- *RODRIGO ROMANI:Cantos Caucanos Y
 (Milladoiro のハープ奏者 Rodrigo Romani の 2003 年作。本作はカ
 リシアの英雄的詩人 Anton Aviles de Taramancos {1935~92} の
 詩に曲を付けたもの。1 曲目のみ伝承歌。気高く優美な音色が素
 晴らしい。Boa)
- *FALTRIQUEIRA:Effecto Y
 (ガリシアの女性 4 人組ヴォーカル・グループ"Faltriqueira"の

2006 年作。各種民族楽器を奏でて澆刺と唄う彼女等の唄 {大半は
伝承歌} と音楽は大衆的で多彩。地中海音楽の香りも。
Resistencia)

(CD/Italy)

- *BETTI ZAMBRUNO & BRTAVELA:Cante Bergera Y
(ピエモンテの女性にまつわるバラッド集。2004 作。
FolkClubEthnoSuoni)

(CD/Russia)

- *COSMONAUTIX:Energija Z
("Russian Balalaika Speedfolk" と呼ばれる男性 4 人組フォー
ク・グループの 2011 年作。彼らのバラライカをフィーチャーした
音楽とダンスブルなフォーク・ロックはユニークで、ロシア民謡
+ クレズマーの匂いをふりまく。そのテンポの速さとヴォーカ
ルの Morgan Nickolay の大上段に構えた唄はユーモラスでもあ
る。2011 作。Piranha)

(CD/Serbia)

- *RADE SERBEDZIJA & LIVIO MOROSIN BAND:Orihi Orihi X
(Feat. Dario Marušić。2002 作。Nika)

(CD/Hungary)

- *AGOCS GERGELY:Kilencz Ballada Z
(民謡研究家でフォーク・シンガーの Agocs Gergely によるバラッ
ド集。バグパイプや羊飼いの笛やフィドルやツィンバロン等の
民俗楽器の伴奏で唄う Gergely の唄は何とも物悲しい。彼の切々
たるシンギングとハンガリー民謡風の哀愁漂う音楽は心に響く。
歌詞原詩&英訳付。英語解説付。2005 作。Fono)

(CD/Bulgaria)

- *BULGARIAN MUSICAL FOLKLORE Y
(by "Svetoslav Obretenov" Bulgarian National Choir。全 22 曲。
1991 作。Gega)

(CD/Gypsy, Klezmer, Balkan)

- *KLEZMIC ZIRKUS:Vitamine Z
(ベルギーの 5 人組クレズマー・バンドの 2007 年作。楽器編成はク
ラリネット、アコ、エレキギター、トロンボーン、チューバ、エレ
キベース、ヴァイオリン、トランペット、パーカッション、サッ
クス等。実験的で挑発的なクレズマーを創作。Home)
- *STRICAT:Jab Z
(オランダの異色のバルカン音楽グループ。ジャズっぽいバルカ
ン音楽というか音楽する発想が自由で、どこかおどけた感じの
音楽。楽器と楽器がおしゃべりし、時々笑わせたり、気まぐれに
スキップしたり、真面目に遊ぶ音楽。2009 作。Karnatic)
- *CIMBALIBAND:Live @ Fono Z
(ハンガリーのジプシー・スタイルのトラッド・バルカン・ジャズ・
ロック・バンド "Cimbaliband" のライブ・アルバム。2010 作。Fono)
- *BALKANBEATS:Balkanbeats (2005 作。Eastblok Music) Y

- *BALKANBEATS:Volume 3(2008 作。Eastblok Music) Y
- *LES PIRES:Album 1er Y
(フランスのジプシー音楽集団“Les Pires”の1992 年作。Griffe)
- *THE KLEZMER CONSERVATORY BAND:A Taste Of Paradise Y
(2003 作。Rounder)
- *JAKE SHULMAN-MENT:A Wheel Y
(クレズマーと東欧のフォーク・ミュージックの演奏家の新世代のリーダーと呼ばれたフィドラーの Jake Shulman-Ment の2009 年作。Orient-Musik)
- *LENA ROTHSTEIN & ENSEMBLE:Como La Rosa Y
(“Cantos Judeo Espanoles II”。1993 作。Extraplatte)

(CD/Kurdistan)

- *NIZAMETTIN ARIC:Azadi Y
(クルド人伝統音楽歌手の Nizamettin の2011 年作。本作は平和、平等、祖国愛を詩に詠む二人のクルド人詩人の詩に Nizamettin が曲を付けてうたったもの。音楽はアラブ音楽的情感が沸き立ち、Nizamettin の唄はどっしりとして、コブシをゆっくりと回す。魂の唄。Kalan)

(CD/Senegal)

- *LAMINE KONTE:La Kora Du Senegal Vol.2 Y
(1989 作。Arion)

(CD/Guinea)

- *DJELI MOUSSA CONDE:Womama Y
(コラ奏者でシンガーの Djeli Moussa Conde の2015 年作。Buda)

(CD/Persia)

- *MAAHA SHABE CHAHARDAH:Sharokh(1992 作。Caltex) X

(CD/Turkiye)

- *IBRAHIM TATLISES:Insanlar(1989 作。Emre) Y

(CD/Venezuela)

- *OSCAR D' LEON:Live Y
(国内盤。解説:岡本郁生。ボンバ・レコード)

[DVD/GUITAR] 国内製 DVDプレイヤーで再生可能

- *WIZZ JONES:Guitar Maestros Series 1 D
(約79分。2006 作。Sound Technics)
- *MICHAEL MESSER:Guitar Maestros Series 1 Z
(スライト・ブルース・ギター奏者 M. Messer のギター弾き語りライブ映像。“Main Featue”は Trevor Dann を話し相手に“Can't Be Satisfied”や“Walking Blues”など8曲を奏法に焦点を当てて演唱。“Additonal Track”は完全ライブで“Rolling&Tumbling”や“The Lone Wolf”など7曲を演唱。約95分。2006 作。Sound Technics)
- *GORDON GILTRAP:Guitar Maestros Series 1 Z
(美麗アコースティック・ギターの G. Giltrap。“Main Feature”では8曲をインデュを挟みながら、Gordon の音楽の歩みを辿るようにアコースティック・ギターとダブル・アコースティック・ギターを神業的名演奏を披露する。“Additional

Track”には神業的名演奏が9曲{こんな美しい”Here Comes The Sun”は聴いたことがない!}収録。加えてエレキ・ギター演奏のワークショップのおまけ付き。ギター・ファン極楽保証。片面 NTSC でもう片面が PAL。2006 作。Sound Technics)

- *STEVE TILSTON:Guitar Maestros Series 1 Y
(S. Tilston のギター弾き語りライブ映像。鮮やかなフラットピッキング・ギターの伴奏による弾き語り”Here Comes The Nights”から SSW の Steve の弾き語りの世界に吸い込まれる。”Main Featue の8曲、”Additional Track”の8曲の計16曲のパフォーマンスが捧げる。2006 作。Sound Technics)

[DVD/USA] 国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- *WORLD TOUR 1966 THE HOME MOVIES “Through The Camera Of Bob Dylan’s Drummer Micky Jones Y
(Bob Dylan のライブのドキュメンタリー。91 分。2002 作。Tour Home Movies)
- *TOWNES VAN ZANDT:Houston 1988-A Private Concert C
(1988 年の観客なしでソファーでくつろぎながらのギター弾き語りライブ。弾き語り14曲に加え、Calvin Russell、Barb Donovan & Larry Wilson のライブ。ラストは T. V. Zandt&Barb Donovan による”I’ll Be Here In The Morning”で幕。2004 作。Barese Sarabande)
- *LAST TRAIN HOME:Live At Iota Y
(2007 作。全19曲。)
- *BRUCE SPRINGSTEEN:Classic Performance Y
(B. Springsteen の初期のベスト・ライブ集。全14曲。1988 年/2005 年。American Legends)
- *BIG BROTHER AND THE HOLDING COMPANY:Hold Me Y
(Sophia Ramos がヴォーカルの Big Brother & The Holding Company のドイツでのライブ。2007 作。Dig Music)
- *TONY JOE WHITE:In Concert Y
(92 年ドイツのライブ・ハウスでの熱いライブ。全11曲。約60分。ドイツInakustik)

[DVD/USA] NTSC Region 1

- ※NTSC Region 1 専用 DVD プレーヤーかパソコンで再生可能
- *DAVID BROMBERG:Recorded Live In Concert At Iowa State Y
University 1985(55 分。Umbrella Entertainment)

[VIDEO{VHS}/USA]

- 国内製 Video プレーヤーで再生可能
- *EMMYLOU HARRIS:Spyboy Z
(”Live From Legendary Exit/In”。全10曲。54 分。1998 作。Eminet)

[CD+DVD/USA {Trad}]

- 国内製 DVD プレーヤーで再生可能
- *KILLDARES:Up Against The Light D
(2CD+1DVD セット。テキサスのケルティック・ロック・バンド”Killdare”の白熱のライブ。2 時間。全21トラック。2010 作。Crimson Clover Music)

[DVD/UK] 国内製 DVDプレーヤーで再生可能

***ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES**

:Live At Stazione Birra, Rome Y

(Albert Lee&Hogan's Heroes のローマでの約 2 時間の白熱のライヴ。70 年代の Albert Lee のスタイル{カントリー・ロック}そのまま。全 25 曲。112 分。2009 作。Heroic)

***ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES:Live In Paris Y**

(2003 年パリでの約 2 時間のライヴ。どっぷり 70 年代スタイルのカントリー・ロック ~ 南部ロックのアメリカン・ロックの世界。全 22 曲。102 分。Heroic)

***JOE COCKER:In Concert Y**

(81 年の白熱のコンサート・ライヴ。“Feelin' Alright”, “A Whiter Shade Of Pale”, “Watching The River Flow”, “Delta Lady”, “You Are So Beautiful”, “With A Little Help From My Friends”他 Joe Cocker の十八番アルバム・レートの 13 曲。スワンピーな南部ロックも最高。2003 作。トイ Alpha Centauri)

[DVD/ENGLAND] PAL

※PAL 専用 DVDプレーヤー/パソコンで再生可能

***FAIRPORT CONVENTION:Beyond The Ledge D**

(1998 年の Cropredy から Fairport {S. Nicol, D. Pegg, R. Sanders, C. Leslie, G. Conway} の出演場面のみを収めた約 2 時間のライヴ映像。全 20 曲。1998 作。Umbrella Music)

***FAIRPORT CONVENTION:Cropredy Festival 2001 D**

(全 15 曲。90 分。2002 作。Classic Rock Legends)

***FAIRPORT CONVENTION:35th Anniversary Concert D**

(2002 年の 35 周年コンサート・ライヴ。“Walk Awhile”に始まり、“Meet On The Ledge”で幕の約 2 時間半の 18 曲。S. Nicol, D. Pegg, C. Leslie, R. Sanders, G. Conway のフェアポートに Vikki Clayton, Anna Ryder がゲスト。ほか S. Nicol, D. Pegg, C. Leslie のインタビュー、ハイヴライヴ等。2002 作。Secret Films)

***FAIRPORT CONVENTION:Live At The Marlowe Theatre, Canterbury D**

(2003 年のライヴ。22 曲入プラス“Si Tu Dois Partir”のエクストラ・トラックにインタビューとハイヴライヴ。メンバーは D. Pegg, S. Nicol, R. Sanders, C. Leslie, G. Conway プラス Andy Guttridge。約 3 時間 15 分。2005 作。Secret Films)

***NIC JONES:The Enigma Of Nic Jones Y**

(1982 年二月の交通事故の振り返りから幕開けする Nic Jones のドキュメンタリー DVD。2010 年の“Sidmouth Folk Festival”での Nic Jones Trio {Nic Jones, Joe Jones, Belinda O'Hooley} のライヴ他 88 分。Topic)

[VIDEO{VHS}/ENGLAND]

***MARTIN CARTHY & DAVE SWARBRICK:100 Not Out D**

(“A Video Album Recorded Live In Concert”。1991 年のライヴ。12 トラック {16 曲}。Musikfolk)

[VIDEO{VHS}/IRELAND]

※国内製 Videoプレーヤーで再生可能

***DOLORES KEANE:In Concert D**

(ゲスト:John Faulkner。全 11 曲。2001 作。Apoll Video)

[DVD/THE NETHERLANDS] PAL all regions

※PAL 専用 DVDプレイヤー/パソコンで再生可能

*FRAIRCK & CORPUS:Circus Hieronymus Bosch C

(オランダの古楽トラッド/プログレ・グループ、フレアークの最高傑作として名高い4作目“CIRCUS”とボツシュの絵画と人生の輪廻を描いた12作目“THE PARADE”の2作品を基盤に展開される、音と映像と演劇の三位一体による総計90分を超える一大スペクタクル作品、とのこと。2002作。Alpha Centari Entertainment)

[DVD/I T A L Y] PAL

*MARIA LETIZIA GORGA:Avec Le Temps, Dalida Y

(ピノ・アメンドラ脚本・監督、マリア・レティツィア・ゴルガ主演の劇場ショーのDVD。2008作。CNI)

[DVD/HUNGARY] PAL

※PAL 専用 DVDプレイヤー/パソコンで再生可能

*MUZSIKAS:Allegro Barbaro A

(“Bartok And The Folk Music”。2007年11月11日にミレナリス劇場で行われた Muzskas のライブ。ヴォーカルは Petras Maria。1時間7分33秒。MU-006)

【『包 (PAO)』創刊号と「松平さんと私」と『祭』プログラムのセット】



*船津が編集・発行した刊行物～『包 (PAO)』創刊号と「松平さんと私」と『祭』プログラム～のセット ¥1300

○『包 (PAO)』創刊号は1984年8月20日発行。P104。

執筆者：船津潔、星川京児、松村洋、白石和良、大島豊、遠藤斗志也、広川裕、須田稔、竹内篤他。

○「松平さんと私～松平維秋氏に捧ぐ～」(松平維秋氏追悼文集)は2000年1月23日発行。コピー・プリント。P31。

寄稿者：船津潔、梅田芳、大江田信、森能文、茂木健、鈴木慶一、マイケル菱川、白石和良、大島豊、遠藤斗志也、広川裕、須田稔、竹内篤他多数。松平氏の執筆記事数点掲載。

○『祭』(音楽と生活と遊びの祭典)プログラムは1988年8月14日発行。P42。

伊藤多喜雄、喜納昌吉、金徳洙(キム・ドクス)・インタビュー他。



(あしがき)

*今年も残すところひと月半。僕も家族も大病を患うこともなく、災害に見舞われることもなく、平穩に終われそうです。

*病氣と言えは私事で恐縮ですが、春頃に静かな耳鳴りがあって、耳鼻科に行ったら、聴力検査があって結果は若者レベル。医師は気にしないこと、と。それでも気になったので、娘推薦の鍼灸院に行ったら、老鍼灸師は脈をみながら「自律神経が乱れてますよ」と。週に一度計五回通院したら、耳鳴りは治って、職業病の眼精疲労と頭痛もほとんどおさらば。おまけによく眠れるようになりました。お陰様で目耳頭スッキリで、何かと気分が楽になりました。

*仕入れを断念した音盤がありました。リストを作ってみれば、枚数的に丁度良いくらいになったかなと思っています。[Moya Brennan](#)と[Eliza Carthy & Jon Boden](#)のクリスマス・アルバムは今回タイミングよく通販ができます。[Moya Brennan](#)もそうですが、[Al Stewart](#)は高齢になっても創作意欲が衰えませんね。

*今年の暮れも Good Music を聴いて、心温かにお過ごし下さい。(船津)



毎朝顔を合わす鹿たち。人に慣れたか、段々逃げなくなりました。鹿が群れで現われるようになってから、年に二回していた原っぱの草刈りが年に一回だけになりました。